

フィールドワーク

18n1142 李 星漢

海南省・騎楼古い通りの歩行空間の変化に着目した地域空間の考察



騎楼（ベランダ）では、中国南部と東南アジアで多く見られる歩行空間である。建物の道路に面する一階部分を人が通るため半屋外し、連続することで屋根を持つ歩行空間が生まれる。降水量が多く、太陽の日差しがとても強い海南省において、騎楼はとても快適な空間である。

都市化により人と車、バイクの数が増え、限られてる騎楼空間の中に人々の考え方が変化し、たまに衝突が起こりつつある。歩行者や障害者は『自分たちが安全に通る権利がある、私物は騎楼からなくして欲しい』、ライダーたちは『都市が提供する駐輪空間が足りない、騎楼に自転車やバイクを止めたい』と考えている。一方、店や住人は『自宅前の空間の利用は個人の自由であり、他人が入ることを欲しくない』と考えている。また政府は『騎楼が多くの問題を起こしているため、騎楼における全てのもの、さらには騎楼自体の空間をなくそう』と考えているようである。

買い物



買い物という行動は、大きく言う店に入り買物をし道路に戻っていくというセットである。

「入る-取引-離れる」のよう、店員とお客さんの状況に基づき、基本的には店の出入りを挟んで取引することが多いが、店員とお客さんの対応は一つ固定のパターンとは限らない。

駐輪



周りでの駐輪は、入る予定のお店の前で駐輪することが一番多いとみられる。昼間になり、交通量が増えるほど駐輪数も増えてくる。

お店と垂直方向で一列に駐輪することが多くで、自動車が駐車することがあっても、駐輪との間にぎりぎりバイクが入れるスペースが確保されていることが見られる。

自転車との混在



騎楼と道路を分けるさかいはっきりしていないので、騎楼の下で歩く人々は自転車やバイクとすれ違うことの恐れがある。歩行者は避けたり歩く速さを緩めたりしそうなものだが、バイクや自転車とすれ違ってあまり速度を変えない。また、順行方向だけでなく、逆行方向で歩く人もいる。

外部との繋ぎ



自転車やバイクが外部道路から騎楼に入る、または騎楼から外部へと出ていくときにバイクでも自転車でも、時間が多くかかる。また住宅が立ち並び、家の前にも車やバイクが無数に止められていて住人以外を寄せ付けない雰囲気であった。





1988年、広東省から直轄するが、都市計画による基本方針は現在に至るまで承継され、各敷地内、特に騎楼古い通りのでの建物は個別更新の形で都市の更新が進んできた。

古い通りのリフォームとまとめられた看板デザインを中心とし、道路沿いの敷地では建物の更新がさらに頻繁に起きており、高層化が激しいが騎楼の一階部分の用途はほぼ変わらない。そのため、純粋な住空間と商業を中心にする飲食街は分離することはないとみられる。市の中心部での静謐な住環境など様々な価値を生んでいるとも言え、海南省・海口市の特長を形成している。



外観のリフォーム



まとめた看板デザイン

おわりに

今回は騎楼から発端して、住民と市街との繋ぎを注目し観察を行った。リフォームと都市化の影響で古い通りの外見と住民たちの生活習慣が変わることがほぼないが観光客が増えることで商店街の役割が大きくなり、コロナ禍の衝撃によって深刻なダメージを負った。

今回のフィールドワークにおいて、華南師範大学の徐氷睿さんから資料をご提供いただきまして、感謝の意を表します。

ご清聴ありがとうございました

